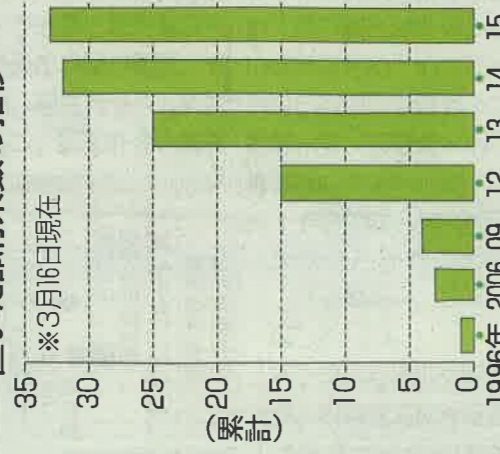


災害医療コーディネーター

震災機に全国拡大

災害医療コーディネーターを
置いた都府県数の推移



このほか鳥根県は「(災害時の)調整役

大規模災害時に被災地入りして活動する医療チームの配置や、患者の搬送先を指揮する司令塔として、本県など33都府県が災害医療コーディネーターを置いていることが16日、各都道府県への取材で分かった。いずれも地域事情に詳しい医師らを自治体が任命。準備中の13道県を合わせるとほぼ全国に拡大する見通しだ。東日本大震災で人命救助に貢献したことが評価され、震災後に導入が急増した。仙台市で開催中の国連防災世界会議でも、災害による死者や負傷者を減らす方策が議論されており、災害時の医療態勢強化につながる取り組みとして注目された。【関連記事2、4、6、23、27面】

33都府県設置済み 患者搬送の司令塔

大規模災害時に被災地入りして活動する医療チームの配置や、患者の搬送先を指揮する司令塔として、本県など33都府県が災害医療コーディネーターを置いていることが16日、各都道府県への取材で分かった。いずれも地域事情に詳しい医師らを自治体が任命。準備中の13道県を合わせるとほぼ全国に拡大する見通しだ。東日本大震災で人命救助に貢献したことが評価され、震災後に導入が急増した。仙台市で開催中の国連防災世界会議でも、災害による死者や負傷者を減らす方策が議論されており、災害時の医療態勢強化につながる取り組みとして注目された。【関連記事2、4、6、23、27面】



阪神大震災で救護班の派遣や患者の受け入れが円滑に進まなかった反省から、兵庫県が1996年に初めてつ

の前は新潟、広島、宮城を加えた計4県が導入。震災後は、栃木や鳥取、京都など29都府県がこれまでに相次いで置いた。

準備中の13道県のうち石川県は今年17日に、長崎県は3、4月に置く予定。北海道、青森、茨城、沖縄の4道県は2015年度内、富山県は15年度以降となる見通しで、時期が未定なのは山口など6県。

自らも災害医療コーディネーターとして現地で活動した石井正東北大教授(2)は「調整役と認識され、いろ



政府に伝達

「70年談話見極め判断」

日中韓首脳会談で中国

災害医療コーディネーター

岩手日報

発行所 岩手日報社
本社 岩手県盛岡市丸山3-7-1
電話 020-8622
盛岡支社 盛岡市丸山3-7-1
電話 019(653)4111
盛岡支社 盛岡市丸山3-7-1
電話 02360-6205
©岩手日報社2015

太陽光発電の家
長期優良住宅
千手移居だからできる
「セ」の暮らし
TEL0197
盛岡千手工務店(65)2562

17日の天気

盛岡	0/0/10	1
一関	0/0/10	2
宮古	0/0/10	1
大船渡	0/0/0	2

週間天気

日	天気	降水確率(%)
18(水)	晴	20
19(木)	晴	90
20(金)	晴	10
21(土)	晴	30
22(日)	晴	20
23(月)	晴	30

全国の天気

札幌	晴	0
仙台	晴	0
東京	晴	0
大阪	晴	0
福岡	晴	0

ろな団体と交渉がうまくいく要因になった。公的な役割を任せられた意義は大きかったと強調する。国も都道府県の取り組みを支援する。厚生労働省は、コーディネーターの業務が自治体ごとに違っていることから、活動内容の統一化を目指し、14年度に全国研修会を開始。同省の担当者は「研修を続け、内容を充実させていきたい」と話している。

本県は13年初委嘱

本県は2013年8月に初めて、県内医師を災害医療コーディネーターとして委嘱した。任期は2年間。現在、県内全域を総括する本部コーディネーター1人と2次医療圏ごとの地域コーディネーター25人(1人は本部コーディネーターと兼務)の計29人で組織し、災害時の被災地での医療ニーズの把握や医療救護活動の調整などを担当。東日本大震災では急性期後の避難所医療などで、病院と行政の連携や医療・物資支援の配置が課題となった。

「若者、女性が主役に」

達増知事 県の防災提言紹介

【仙台支社】達増知事は16日、仙台市で開催されている国連防災世界会議のワーキングセッション「地域リスクに取り組みコミュニティ」にパネリストとして出席した。東日本大震災の教訓を踏まえ、「若者や女性の活躍支援」と「地域連携による防災教育推進」に関する提言を英語で紹介。各国から集まった約250人の参加者からは、若者や女性の活躍支援などについて共感する声が上がった。

【達増知事のスピーチ要旨(中)】同セッションは、津波や高潮被害の当事者、リスク管理に当たる専門家らチリやフィリピン、アメリカなど7カ国の代表が、それぞれの教訓や地域防災の在り方を順に発表し、加者との意見交換で

一歩一歩 ともに

② 障害年金で官民格差
③ 首相「大戦に深い反省」
⑤ ブラジル百万人超デモ
⑦ TPP 次回合未定
⑫ 特集・地域再生大賞
⑭ イヌワシ わずか500羽
⑯ 近代の宮中献立公開へ
⑰ 優しいまちを探る

11声、ひと、交差点 12国生活、運勢
14文化 15国スポーツ 16国ラジオ欄
20盛岡・東北 21国県南 22国沿岸

■ 若手日報ホームページ <http://www.iwate-np.co.jp/>
■ 読者センター(平日9~17時)
■ ファックス 019(653)8206
■ Eメール dokusya@iwate-np.co.jp
■ ご購読申し込みは... 0120-240840

は、達増知事の提言も踏まえる形で「自分で自分を守る教育は重要だ」などの意見や提言が上がった。マレーシア女性・家族・地域開発者のタト・サバリア・ハッサン事務局長(8)はセッション後、「毎年のように大きな洪水被害を受けるが、幼い時から災害のリスクを教育することは、大きな備えとなる」と述べ、共感した様子。トゴの防災市民社会団体から参加したコソビ・ネバエマ・アテッサさん(3)は「知事の説明は、教訓に基づいており非常に有意義だった。災害の教訓をしっかりと掘り起すことは意義深い」と指摘した。世界会議では、強い農業など34セッションが開かれ、政府間会合とに会議の大きな柱の一つとなっている。達増知事はセッション終了後、「今回表を一つのステップに、今後も世界にで、本県の事例やを発信し続けたい意欲をみせた。」

風土計

2015.3.17
九州の別れとちの3月、咲く。活に慣らる開